

羽地陸軍補助施設（多野岳ホーク基地）（名護市）

- 1 基地名：羽地陸軍補助施設
- 2 所在地：名護市字川上・字仲尾次・字親川・字真喜屋
- 3 返還面積：380千㎡

4 主な沿革

- ・昭和31年：土地接收
- ・昭和34年：ミサイル発射台と関連施設の設置、その後防空ホークミサイル基地として使用される
- ・昭和37年：66千㎡が返還
- ・昭和40年：37千㎡が返還
- ・昭和47年：277千㎡が返還され、全部返還となる



5 接收の経緯

同施設は、名護市多野岳山頂部の羽地大川や源河川の上流に位置し、水資源涵養林の役割と薪炭採取地として使用されていたが、米軍の防空ミサイルの沖縄配備計画に基づき、昭和31年に米軍に接收された。昭和34年頃からミサイル発射台とその関連施設が建設され、その後、防空ホークミサイル基地として使用されていた。

6 返還の経緯

昭和37年に66千㎡、昭和40年に37千㎡が返還された。昭和44年頃からは遊休化し、昭和47年の復帰に際し277千㎡が返還され、全部返還となった。

7 現在の土地利用状況

返還後は、「いこいの村」として保養施設が整備され利用されていた。現在は、民間のホテルが運営を引き継いでいる。



昭和47年5月(写真提供：沖縄タイムス)



多野岳山頂付近
平成17年5月(写真提供：沖縄タイムス)